全国６ブロックでの研修で行ったグループワークで出された意見

「住民組織と協働するのは何のため？」

**グループワークでの意見**

　地域の見えないニーズを把握し，地域にあった活動の企画運営ができる

　　　住民組織が地域を知るための「目や耳」となる

　　　地域から得られる情報量が増える

　住民組織のメンバーが取り組みを地域に広げてくれる

　　　必要な情報を地域住民に発信してくれる

　住民組織と協働することで，地域の資源（人的資本や社会関係資本）を得られる

　　　①情報　地域の情報が得られるとともに，地域に情報提供ができる

　　　②マンパワー　地域の人材を活用できる

　　　③ネットワーク　地域のネットワークがあるからこそ，見えてくるものがある

　　　　　　　　　　　災害時の支援や日頃の見守り等

　住民組織活動を通じて，地域の人が元気になり，地域の活性化

　　　行政にとっては，予算をかけずに大きな効果を生み（効率化），質の高い仕事ができる

　住民組織と行政が協働することでお互いに補完できる

　　　住民だけではできないこと，行政だけではできないことを実現できる

　住民にとっては，行政との信頼関係ができ，相互の理解が深まる

　　　行政の後ろ盾があって，活動がしやすくなったり，発言がしやすくなったりする

　住民にとっては，行政と協働することにより，自分たち思いを実現できる

　　　自分たちが考えていることを表出していいのだと思える

　　　行政や専門職から必要な情報を得やすくなる

　住民にとっては，住民組織活動を通して，自分の居場所ができ，地域で安心感が得られる

　　　新たな仲間ができることも魅力

　住民にとって，組織活動に参加することで，やりがいや楽しさを感じること

　　　学びや成長を実感，新たな人や組織とのつながり，自分たちで企画する楽しみ・・・

　　　負担を感じない範囲でやりがいを感じられること

　　　楽しさを感じられる活動づくり　→　活動の持続，広がりが期待できる

　組織の存続が目標になってしまうこともあるが，組織も生き物である

　　　状況によっては，最小限の関わりで，つなぎとめておくという選択肢もあり

　　　　　無理に関わることで，お互いにパワーレスになることもある

　　　廃止してしまわずに，状況が変わったら，濃厚に関わる

　健康に関連の薄い組織も地域にはたくさんある

　　　健康に固執しなくても，ソーシャル・キャピタルの醸成につながれば，ＯＫ

　　　いずれは地域住民の健康や幸福につながっていく

　「協働」とは何か？　対等な立場で，各団体が得意分野を生かして，同じ目標をめざす

　　　地域住民と行政が「主従」の関係ではなく，対等な立場で協働すること

**助言者のコメント**

　ソーシャル・キャピタルの醸成は手段でしかない

　　　健康も資源であり，健康づくりは手段である

　　　方法論の議論になったら，「それは何のため？」を確認することが大切

　自分らしく生きることが目的

　　　地域のエンパワメントこそ重要

　元気高齢者の増やすことには「夢」がある　元気老人が増えたら，何ができるか？

　　　その活躍の場が住民組織である

　この目標を実現するために，協働できる組織を募ること

　　　顔の見える関係よりも「腹」の見える関係が大切

　ソーシャル・キャピタルの醸成は「畑」を耕すことだが，どんな花を咲かせるのか，どんな実
　を実らせるのかを，議論することが大切

　　　目的を確認することで，夢を描くことができる

　「人の役に立ちたい」という思いを持っている住民は少なくない

　　　こうした思いを実現できるように支援すること

　住民にとって，楽しい，やりがいがあると思ってもらえるように

　　　学びや成長が感じられる，活動の成果が見える　←　「見える化」をする

　住民組織のメンバーや行政との目的のすり合わせが重要であり，時間を惜しまずに行うこと

　　　住民と一緒に保健計画を策定していれば，保健計画により目的や目標を確認できる！

　協働のために必要なものは３つ

　　　目標が共有されていること　相互に尊敬しあうこと　役割の認識

　協働という言葉で，安心しないこと

　　　行政の限界を認識して，地域に学ぶ姿勢が大切

　様々な事業が国からトップダウンで降りてくるが・・

　　　その事業により，地域でめざす姿をどう実現するかを住民と一緒に議論することが大切

　団塊の世代が地域活動に参画するようになってきたが・・

　　　プレゼンや目標設定のノウハウも持っているが，長続きしない

　　　企業のノウハウをそのまま地域に持ち込み，地域での話し合いを非効率的であると感じる

　　→　新たに住民組織に参加する人に，住民組織活動の意義を理解してもらうことが大切

　住民が感じる「やらされ感」は悪い面ばかりではない

　　　白紙から自分たちの活動を考えるのは大変なので，活動内容が決まっていることは推進員

　　　にとっては，安心につながっている場合もある

　こうした活動から，徐々に主体的な活動へとシフトしていくという戦略も

　　　啓発物の配布等を通して，地域住民の声を集め，ニーズ把握につながっていることを評価

　　　自分たちが集めた情報から地域の課題を一緒に議論することが大切

　住民にとって，住民組織活動や行政との協働がどのような意味があるのかを考えることも大切

　　　住民組織活動が住民にとってどのような意味があるかは，「手引き」の16ページを参照

「地縁が乏しい地域において住民組織と協働するのは何のため？」

**グループワークでの意見**

　住民サイドから見た協働の目的

　　　孤立を防ぐ　（組，講，家族などが以前はあっが，それが希薄になった）

　　　地域のことが良くわかるようになる　地域で住みやすくなる

　行政サイドから見た協働の目的

　　　保健師がカバーできない部分をみてもらえる　地域の実態が把握できる

　　　　　地域の資源を見つけて，協働しやすくなる

　その人らしく，地域で生活できる

　　　知縁でつながる人たちは元気で地域のために役に立ちたいと考えている

　顔のわかる知り合いが地域にいると，安心して暮らせる　自分の居場所がある

　　　孤独死が問題になっている　年間，数件は起こっている現状

　　　つながりを持ちたくないと口では言っているが，つながりたかった！？

**助言者のコメント**

　地縁の乏しい地域において，なぜ組織活動が必要か

　　　住民にもわかる，行政にもわかるようにすることが必要

　なぜ必要か，保健師だけが分かったつもりで，進めると・・・

　　　どの分野においても，住民は「やらされ感」を感じることになる

　防火活動等も重要な役割を果たしている

　　　自治会に入っていない人にどう関わっていくかの議論も大切

　東日本大震災後の経験から

　　　結束型ＳＣが豊かな避難所では，避難所の運営がうまくいき，最初の１週間は良かった

　　　橋渡し型ＳＣが豊かな避難所では，外部からの支援がいち早く入った

　　　連結型ＳＣ（上部組織とのつながり）が豊かな地域では，復興に向けての動きが早かった

　地縁のない地域はないのではないか？　地縁が全くない人はあり得ない

　　　都市部の方が，ソーシャル・キャピタルそのものはたくさん持っている

　　　地縁組織以外のたくさんのつながりを持っている

　健康問題は個人の問題か？

　　　地域に住む人々の共通の問題としてとらえられるのか？

　　　食生活や運動習慣を共通のリスクとしてとらえられるのか

　公衆衛生従事者がその部分をしっかり伝えられていない

　　　それが，行政と住民の住民組織の必要性の共通理解につながる

　住民組織との協働の必要性を住民の視点と行政の視点で議論することは重要

　　　その乖離が問題であり，行政として，住民組織との協働の必要性を理解してもらうこと

　地域にある住民組織の「横串」をどうさすのか　住民組織間の連携をどうとるのか

　　　行政が必要だからと考えても，「横串」を刺すことは容易ではない

　　　なぜ，組織間の協働が必要なのか，それぞれの組織の理解を得ることが大切

　　　必要な組織から繋いでいくという戦略が現実的

「職域と連携するのは何のため？」

**グループワークでの意見**

　企業にとっての行政との連携の意義やメリットが感じられにくい現状

　　　メタボ対策は企業にとってメリットを感じられるか？

　　　企業の方はメンタルヘルス対策の方が重要だったりする

　企業の思いと行政の思いのすり合わせが重要

　　　地域のつながり，個人的なつながりも大切

　　　企業の歴史や文化を知ることにより，寄り添える

　企業側が困っていることは何かを明らかにしていくこと

　　　困っていることから，連携を広げていく

　　　企業の職員だけでなく，その家族の視野に入れて関わることで，より広い関わりができる

　企業にとっては，行政との連携のメリットは・・

　　　収益を上げる，周囲の評価が上がる（優良企業）
　　商品化のために，地域のニーズについて情報が得られれば・・

　地域にとっては，地域住民だけでは解決できない課題を企業と一緒に解決するために連携

　　　災害時に企業との連携で，住民の救援をする

　国保には働き盛りのデータが少ないので，企業とデータを共有して，地域の健康実態を把握

　　　協会けんぽと協定を結ぶ自治体も出てきている　ＫＤＢの活用も

　自治体と商工会の商店街との協働により，地域ぐるみの健康づくりをめざす

　　　自殺対策からメタボ対策まで

　産学官の連携で，高齢者向けの歩行器の開発に取り組む企業も

　　　住民一人一人の健康やＱＯＬの向上に寄与することをめざしている

**助言者のコメント**

　Win-Winの関係になるために相手を知ることが大切

　　　企業の理念，連携する際のキーパーソンについて

　商工会と商工会議者が別物であることも知らない現状

　　　青年会議所と商工会青年部の違いなども知らない保健師が多い

　担当課が各市役所にあるので，その職員と相談すること

　　　組織同士の力関係やキーパーソンなども教えてもらえる

　産業祭は，地域の企業を知るのには，良い機会である

　　　その際に，どの企業と組めるかを探ることができる

　医療制度改革以降，職域における健康づくりは保険者の役割で，行政の役割ではないという声

　　　埼玉県の坂戸市では「市民とは，市を応援してくれる人」と定義をしている

　企業との連携はその目的を確認することが大切

　　　職員の健康づくりでの協働なのか，企業活動による地域の健康づくりへの協力要請なのか

　　　Win-Winの関係になるためには，企業が何に困っているのかを確認すること

　企業との連携には，行政の他部局（商工関係の部署）との連携も重要

「ソーシャル・キャピタルの醸成にかかるＯＪＴにおいて，大切にすべきことは何か？」

**グループワークでの意見**

　地域と人との関係づくり　先輩と一緒に挨拶

　　　住民に教えてもらえるようになった　→　住民に育てられた

　　　　　住民に教えてもらうという姿勢が大切

　　　新任保健師にとって，地域住民は年上の方々なので，地域の課題を教えてもらう姿勢で

　　　電話だけでなく，近くに寄った際に，顔を出すことが大切

　住民に顔を覚えてもらうことが大切だが・・　なぜ，face to faceが大切なのか？

　　　メールや電話ではなく，足を運んで会う意義を理解してもらう

　　　　　住民はどんな表情で話を聴いているのか，どう感じているのか？

　　　　　会って話せば，住民から地域の課題を教えてもらうこともできる

　校区での会議に複数の保健師で出かけている

　　　新任期の保健師が住民組織との協働に関わるきっかけづくりを

　　　行く前に会議の目的や資料の作成などを一緒に行う

　組織の人間関係を事前に情報共有をする

　　　会議の後に気になったことを確認する

　新任期の保健師が地域で感じた課題

　　　中堅期の保健師は，それを客観的なデータで裏付けられるようにする

　台東区では，地域のキーパーソンの座談会がある

　　　新任期の保健師がファシリテーターとして参加し，ＳＣの大切さを学ぶ場になっている

　　　たくさんの意見をいただくので，息苦しくなるが・・

　　　息抜きや保健師の役割を確認できるような先輩保健師によるフォローも必要

　一人職種としての栄養士　食事のことは，お願いと任されてしまうが・・

　　　食生活改善推進員のことも保健師と一緒に関わることが大切

**助言者のコメント**

　住民組織や関係機関との連携が電話１本で済む関係になっていたとしても・・

　　　それまでには，顔を合わせての関係性の構築があったはず

　　　こうした目に見えない過去のプロセスもきちんと伝えることが重要

　電話で済むところを，出向くことで多くの情報を収集できる

　　　こうした良さを振り返ること　それを新任期保健師に伝えること

　研修会でも，名刺交換をして，繋がる機会にする

　　「パンツを忘れても，名刺は忘れるな！」　先輩からの教え

　中堅職員がいきいきと住民組織と協働している姿を見せられているだろうか

　　　住民組織との関わりが10のうち８，９は辛いことだったとしても，うまくいった，１，２

　　　のことを周囲の若い職員に伝えることも大切

　困っていることは職場で周りに愚痴ることは多いが，うまくいったことを話していない

　　　全ての分野において，うまくいったことを意識的に周囲に伝えることが大切

　　　保健活動の醍醐味ややりがいを後輩たちに伝えるためには重要